

事務事業評価シート 平成 28 年度事後評価・決算

平成 30 年 2 月 22 日時点

事務事業評価シート					平成 28 年度事後評価・決算		所管課		農水産課		担当班		振興班			
事務事業名			コード	22400 農業振興事務費	予算科目	会計		款	項	目	事業種別	☒ 主な事業（重点施策）重3				
② (幽学の里で米づくり事業)						一般		6	1	3		☐ 国土強靱化地域計画				
施策体系	基本施策	17	交流の促進			根拠法令	旭市補助金等交付規則					☒ 新市建設計画				
	施策の展開	31	交流事業の促進			戦略事業	148	幽学の里で米作り交流事業					☒ 定住自立圏構想			
	施策の展開					戦略事業							☐ 主要事業			

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 18 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	・国指定重要文化財である大原幽学ゆかりの水田(幽学の里)での米づくりを中心に都市住民との交流を図る。また、市の観光資源、豊富な農水産物をより多く知ってもらうことで、旭市の認知度を上げるとともに、市のイメージアップを図る。また、継続的な来訪及び市の産品の売り上げ向上による経済効果を狙う。 ・地元生産者が都市部の消費者と交流を図ることで、消費者の求めるニーズの把握、新たな顧客の確保につなげる。 ・事業実施団体は「旭市都市農漁村交流協議会」で、市内の生産者や食育関係などの会員で構成し、会員数は40人。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
遊休農地となっていた大原幽学ゆかりの水田(国指定重要文化財)を活用し、都市部住民との交流を通して、旭市の農水産業・歴史・観光等の発信を行う。	開始から11年目を向かい、参加者も例年予定数に達しており、熟成段階に入っている。単なる米作り交流に限らず、幽学の歴史や観光の発信、食の安全・食育に関するテーマのイベントを平行して実施しているが、重畳の影響や安全への配慮により当該事業への参加を見合わせている団体もある。また参加団体において団体統合するなどにより、参加団体数が減少しており、体験農地の約半分の面積が余剰となっている。協議会会員の高齢化が問題となっているため、今後は新たな事業展開を模索しながら、新規会員(若手)の加入促進の必要がある。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
現在、受入側の組織「旭市都市農漁村交流協議会」の会員はわずかながら年数人の賛同者が加入しているが、各イベント毎に申し込みに限られる会員は減少傾向にあり、新たな募集をかけるなど協議会自体の体制の強化を図っている。また、事業対象者からは「会員(従事者)の増員(若い生産者、職種のバリエーション)」や「従来のイベント内容の充実」を求める声とともに「参加者を飽きさせない新しいイベントメニューの取り組み、開発が必要な時期」との意見が出ているところであるが、アイデアだけでは実現が難しく、人員や経費の面で調整や課題が難しいのが現状である。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(28年度の決算)	単位:千円	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
1. 医療福祉・食・交流のつくり事業補助金	1,000	739	1,000	1,000	1,000	1,000
② 特定財源の内訳(28年度の決算)	単位:千円					
1. 国庫支出金	0					
2. 都道府県支出金	0					
3. 地方債	0					
4. その他	0					
事業費計(A)	739	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1. 国庫支出金						
2. 都道府県支出金						
3. 地方債						
4. その他						
5. 一般財源	739	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
従事職員数	常時 2人	最大 12人	×	10日	=	延べ 120人

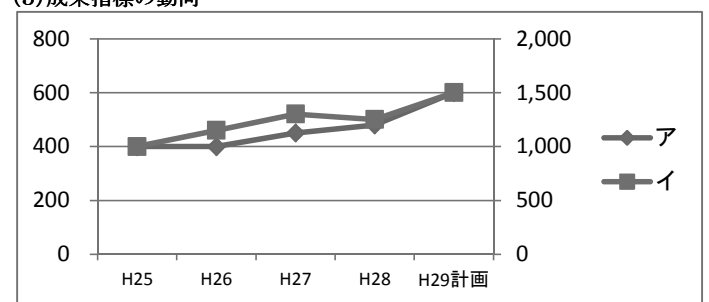
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
目的	28年度実績(28年度に行った主な活動)	イベント実施回数	回	12	12	14	14	14
	・大原幽学での米づくり交流事業を中心に平成27年度とほぼ同内容で活動を展開 ・旭市と都市部住民の新しい交流展開にも臨むため、研修会を実施し、協議会々員個々の能力向上を図る	イベントへの参加延べ人数	人	1,000	1,150	1,300	1,252	1,500
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
目的	・東京都民、千葉県民、埼玉県民 ・旭市民 ・参加者に「旭の農水産物や食」に対する関心をもってもらおう。	旭市の農水産物を購入(消費)した参加者	人	400	400	450	480	600
	・交流イベント参加者 ・参加者の満足度を向上させ、更なる交流の促進を図る	イベントへの参加延べ人数	人	1,000	1,150	1,300	1,252	1,500

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない
施策貢献度	大きい		②	
	普通			
	小さい			
② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
評価結果	①			
	②		(2)	
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況		☐完了☒順調☐概ね順調☐停滞☐実施困難															
	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)		参加者の大半が都市部住民であることや屋外での体験が各イベントの主となるため、イベント当日の天候次第ではイベントの縮小に伴う参加者の大幅な減がある															
	② 成果の状況		成果指標ア		成果指標のタイプ		数値増＝成果向上		☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下		成果動向	比較		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
			成果指標イ		数値増＝成果向上		☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下					25年度	26年度	27年度	28年度	29計画		
	【コメント】 (低下の場合、その理由)		平成28年度米作り交流事業に関しては、イベント当日が雨天であった日が数回あったり、学校行事と重なったりして、参加者の欠席が多かった。(イベント自体は雨天決行)															
③ 今年度取組事項 (29年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容					今後の方向性	☐拡大☐縮小		☒現状維持☐廃止・休止		☐見直し☐その他()					
		年度下半期 (3月頃)	道の駅季楽里あさひと連携をした交流事業活動のPRイベントを実施(例年どおり)					H29年度以降	本交流事業自体が天候に左右される屋外での体験イベントが主であるため、天候不順時においても安定して提供でき、満足感が得られるような他のミニイベント等の実施について、導入することが可能かどうか今後協議役会員と検討していく									